

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立玉川小学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 山口 行子

学校教育目標

学校経営の方針

豊かな人間性とたくましく生きる力をもった児童の育成

本校の伝統と児童・地域の実態を踏まえ、社会の変化に対応して充実した未来を気付くことを目指して、豊かな心を持ち自己の目標に向かって努力し、たくましく生きる力をもった児童を育てる。そのために、全職員と保護者・地域が信頼と和を深め、一人一人の個性と創意を生かして共同し学校教育目標の具現化を図る。

今年度の重点目標

- 【ひびきあう心】 自他を尊重し合い、活動の主体性を高める取組の推進
- 【ひびきあう学び】 学習意欲を高める指導の工夫
- 【ひびきあうこだま】 人や自然との関わりを大切にする活動の推進

自ら挑み、まなびあい、頑張る場を設けることによって児童の主体性を育む。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
【ひびきあう心】 他者を尊重し、活動の主体性を高める取組の推進	2	<ul style="list-style-type: none"> ○居心地の良いクラスづくり ・児童アンケート結果などを活用した学級運営 ・あいさつや望ましい言葉遣いの励行(がんばる子) ・年間を通して人権感覚を養う活動 ・一人一人の違いを認め合い、お互いを高め合える人間関係づくり(まなびあう子) ○個に応じた支援の充実 ・いじめアンケート、生活アンケートを基にした個別面談の実施 ・教育相談コーディネーターや児童指導担当を中心とした児童理解の充実 ・スクールカウンセラーや元気アップアシスタント等による相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期にいじめアンケートや生活アンケートの結果をもとに担任と児童の教育相談を行い、児童の実態や学級の課題を把握し、その後の子どもたちへの指導や支援に生かすことができた。 ○児童指導担当や教育相談コーディネーターを中心に児童理解の充実を図ることができた。毎週水曜に児童指導支援会議を設け、全職員で共通した児童指導を行うことができた。 ○SCとの連携を密にし、専門的な助言を児童指導や児童支援に生かすことができた。 ●SCにはより多くの児童や保護者に関わってもらおう工夫をしていきたい。 ●保護者アンケートの評価で「お子さんは、困ったときに学校職員に相談できていると思いますか」の達成率が昨年と変わらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> →SCにみてもらいたい児童の希望を担任からとる。相談だけでなく、行動観察の時間も確保するようコーディネートする。 →「相談カード」の設置方法を工夫し、相談しやすい環境づくりを行う。

	2・3	<p>○児童の主体性をはぐくむ活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の目的意識の明確化 ・児童会活動の工夫、充実(いどむ子) ・縦割り活動、異学年交流の推進 <p>○家庭学習の充実</p>	<p>○児童の思いを生かした「玉フェス」を行うことができた。児童自ら、楽しむことと感染対策を両立するための工夫を考え、生き生きと活動する様子がみられた。</p> <p>○新しい生活様式の中で、工夫しながら異学年交流にチャレンジすることができた。縦割り清掃や縦割り遊びでは、高学年が手本を示すことのできるよい活動となった。保護者アンケート「特別活動を通じた自主性・責任感の育成」と児童アンケート「係や委員会ですべて自主的に活動できている」が昨年より高くなった。</p> <p>○課題であった「あいさつ」については、各クラスでの取り組み、実行委員を加えたあいさつ運動、委員会からの呼びかけ等により、進んで挨拶をすることを意識できる児童が増えた。保護者アンケートのポイントは変わらなかったが、児童アンケートでは「自分から先にあいさつをしている」のポイントが上がった。</p>	<p>→活動の前後に挨拶やお礼等が自然にできるよう、全体で指導していきたい。</p> <p>→「あいさつはこだまする」玉川小学校を目指した取組を継続する。</p>
【ひびきあう学び】 学習意欲を高める指導の工夫	1	<p>○わかる授業・楽しい授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや成果の自覚を促す工夫(いどむ子) ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを表現したりして学びを深める指導の工夫 ・校内研究、進んで自分の思いを伝え合う児童の育成、研修の充実 ・情報活用能力を育てる指導の工夫 ・一人一台のタブレットを活用した指導の工夫 	<p>○児童の実態に応じて自分の考えを表現したり、話を聞いたりさせて学びを深められるように指導工夫することができた。</p> <p>○●校内研究や校内でのICTのミニ研修会により、自分の考えを表現する取組が活発になってきている。クロムブックの特性を理解し、さらに文具のように扱いたい。</p> <p>○●校内研究で、児童が語彙を増やす活動を楽しみ、積極的に行えるようになってきている。その語彙を使って、児童が自分から表現できる場面を意図的に設定していきたい。</p>	<p>→クロムブックの適切な利用について教職員で学び合い、児童が主体的に活動したり、学びを深めたりするために利用させたい。</p> <p>→校内研究において、一年目の成果を生かしつつ、児童の語彙を増やしたり、表現したりする活動をさらに充実させる。</p>
	1	<p>○読み・書き・計算の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTや少人数指導等の充実 ・モジュールタイム等の有効活用した学習の意欲付け、学習内容の定着 	<p>○モジュールタイムを利用し、話したり、聞いたり、書いたりする活動を繰り返し行い、学習内容が定着してきている。</p> <p>○全学年でTTや少人数指導、取り出し指導等を行うことで、個に応じて児童の支援を積極的に行うことができた。</p> <p>●クロムブックの活用や個別最適な学びを意識した取組ができるとさらによい。</p>	<p>→算数・国語における少人数指導や個別指導等を行っていく。</p> <p>→授業やモジュールタイムでのクロムブック等を積極的に活用し、読み・書き・計算の学習内容の定着を図っていく。</p>

<p>【ひびきあうこだま】 人や自然とのかかわりを大切に する活動の充実</p>	1・3	<p>○豊かな自然を生かした活動 (総合的な学習の時間・生活科) ・児童の主体性を育む農業体験活動の工夫(総合的な学習の時間) 1・2年小麦、3年大豆(花壇)、4年さつまいも、5・6年米・もち米づくり ・自然体験活動の工夫(1、2年生活科等) ○人とかかわり、連携を生かした活動 ・地域住民との連携を生かした活動 ・近隣校との交流を生かした活動 ・姉妹校(川崎市立玉川小学校)との交流活動(4年)</p>	<p>○コロナウイルス感染予防に留意して、農業体験活動を行うことができた。また新たな見学先なども開拓することができた。今年度も収穫した作物は、家庭で調理・試食することで、収穫の喜びを共有することができた。</p> <p>○児童の主体性を育む授業づくりを行い、それを地域の方々にサポートして頂く形で活動を進めることができた。</p> <p>●さらに活動を充実させたり、精選したりしていきたい。</p>	<p>→その年の児童の実態に合わせたものを見極めて計画、実行するようになっていく。</p>
	3	<p>○安全教育の推進 ・登下校指導や子どもの危機意識を高める工夫 ・安心安全な学校環境づくりの推進</p>	<p>○コロナウイルス感染予防に応じた避難訓練や下校指導を行い、児童の安全意識を高めることができた。また毎週の一斉下校を行い、担当と高学年からの安全に関する一言から子ども目線での安全意識も高めることができた。</p> <p>●歩道の歩き方など交通ルールを繰り返し指導はしているが、まだ完全には定着していない。継続指導が必要である。</p> <p>●自転車用ヘルメットを着用せずに自転車を運転している児童が数名いる。</p> <p>●児童の防犯や災害等に対する危機感が薄いようである。</p>	<p>→交通ルールについて全職員共通理解のもと、帰りの会などで引き続き繰り返しの指導を徹底していく。</p> <p>→毎月「安全の日」に着用状況の点検を行い、懇談会などで「自転車用ヘルメット着用は保護者の義務」として、保護者に協力を求めるとともに、児童に声かけを引き続きしていく。</p> <p>→避難訓練等の防災訓練の工夫をしながら、啓発していく。職員も慣れずに危機感をもって想定外の場合も考えるように職員研修などを取り入れていくようにする。</p>
	1・3	<p>○特色ある教育と情報発信(小規模特認校) ・学校、学年、各種たよりの充実をはかる。 ・学校ホームページの工夫、充実をはかる。</p>	<p>○ホームページは、こまめな更新を心がけている。保護者アンケートから、児童の学校生活の様子について関心をもっていたりしていることがわかった。新しいホームページに変更し、更新しやすくなったので全職員で活発な更新を進めていきたい。</p>	

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

挨拶については、普段登校指導していても変化を感じる。素通りしていた子が頭を下げるようになった。おはなし会でもよく挨拶ができています。玉川図書館に来る子どももよく声をかけてきて、以前よりよくなっている。一人一台のタブレット端末は将来的に必要なこと。学校に行けない子どももオンラインで授業が受けられる。子どもの主体性を高める学校づくりが行われている。農園活動においても主体的活動が行えている。人との関わりでは、子どもの警戒心を解いて、大人への信頼関係を育てていくとよい。地域活動をさらに充実させていく。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

コロナ感染が収まりつつあった今年度。感染対策を講じながら地域との連携・交流を行った。農園や地域活動を通して、総合的に玉川小学校の特色を生かした取組ができた。来年度は、地域ボランティアを募り、子どもたちの学習面や生活面のサポートを強化させていきたい。